

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2022~2023年度 No.278

2 月報

那須クラブ会長 主題

地域につなげ那須ワイズ IV



強調月間：TOF

FF

HTW

今月の聖句

父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つとなるようにしてください。(後略) ヨハネ17:18

2月第1例会(リーダー報告会)

日時：2月18日(土)午後4時30分~6時

場所：日本基督教団西那須野教会1階ホール

内容：リーダー研修会に参加したリーダーよりの報告と卒業リーダーに対しての感謝の品物を送る

司会：田村 修也副会長

開会点鐘 会長 河野 順子

聖書朗読・祈禱 司会者

ワイズソング斉唱 一同

ワイズ信条 斉唱 一同

会長挨拶・ゲスト紹介 会長 河野 順子

「全国リーダー研修会・YVLFの報告」

全国リーダー研修会

渡辺航平(こーちゃんリーダー)

ユースボランティアリーダーズフォーラム

佐藤彩華(せつぷうリーダー)

卒業リーダーに対して那須ワイズよりの記念品贈呈

那須ワイズより、リーダー育成のための献金

YMCAの報告

ワイズの報告

YMCAの歌 一同

閉会挨拶・点鐘 会長 河野 順子

メンバー・メネット 会費：500円

参加者は準備の都合がありますので、2月15日(水)までに村田まで。メールまたは電話(090-9095-4035)連絡をください

2022~2023年度 主題

国際会長：(IP) ウルリック・ラウロセン(デンマーク)

「輝かそう、あなたの光を」

アジア太平洋地域会長：(AP) チェン・チ・ミン(台湾)

「新しい時代とともに、エレガントに変化を」

東日本区理事：(RD) 佐藤 重良(甲府21)

「未来に向けて今すぐ行動しよう」

北東部長：大久保 知宏(宇都宮)

「クラブのミッションを育てよう」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：平山 雄大

ブリテン：田村 修也・村田 榮

1月例会データ(出席率：85.7%)

在籍者 7名

出席者 5名 メイキャップ 1名

メネット 3名 ゲスト 1名

2月 Happy Birthday

2/12 村田 榮メン

3月第2例会(役員会)

日時：2月24日(金)午後4時30分から

場所：田村副会長宅・ZOOM

3月第1例会(CS公開講演会)

日時：3月18日(土)午後2時から

場所：日本基督教団西那須野教会1階ホール

ワイズメンズクラブ設立100周年記念祝賀会

日時：3月10日~12日

場所：台湾

巻 頭 言

河野 順子

この文章を書いている今、北関東の那須地区は大雪が降っています。久々の大雪にいつもなら、車道は積雪などないので出かけることに苦を感じませんでしたが、今日はまだしんと降っており、リスクなことは止めておき家に閉じこもっています。

齋藤幸平氏の「人新世の環境危機と21世紀のコミュニズム」学士會会報 No955 (2022-IV) をしばし引用します。

「多くの人は、『コロナ前は全てがうまくいっていたのに、この2年間、コロナのせいで悪夢のような毎日だった。でも、ワクチンのお陰で漸くコロナは終息する。早く元の生活に戻りたい。』と期待しています。しかし、私はそうした期待に違和感を抱き、『コロナ前から上手くいっていなかった。だからコロナ禍が起きた』と考えています。そもそも新ウイルスの発生事態、人類による環境破壊の結果です。森林の伐採や大規模農場の開発により、野生動物との距離が縮まり、未知のウイルスとの接触機会が格段に増えた事が、こうした事態を招いたのです。実際、学者達はSARSやMERSの前例があるので、以前から未知のウイルスの世界的大流行について警告していました。コロナ禍は、資本主義がもたらした二つの危機（気候変動、格差社会）を可視化しました。コロナ禍は最後の危機でも最悪の危機でもありません。むしろ、これから始まる人新世の危機の最終リハーサルです。その元凶が気候変動なのです。」

著者は、気候変動は慢性化すると言っています。確かに、世界各国の異常気象は大きな損害、被害をもたらしています。温暖化により海面上昇での魚類の北上移動も聞いています。著者は、脱成長を説いていますが難しい問題です。

山火事や干ばつ、水不足、大洪水など対岸の火事ではなくなりました。

孫子時代にどのような世になるのでしょうか？グレートリセットという言葉が各国で流通しているようです。

那須クラブが行っている植樹はマイクロながら役に立つのでしょうか？ワイズのCSもマイクロです。だからといって、指を咥えて変化を待つことは出来ません。難しいです。



2023. 1.14 新年例会 於：原田さん宅

1月第1例会(新年例会)報告

日時：1月14日(土)午後2時～

場所：塩谷町 原田 晴子さん宅

出席者：河野、田村、村田、張、藤生の各メンバー、田村、藤生、村田メネット、ゲスト：原田、計9名
新年例会は、恒例の『今年の願い(抱負)スピーチ』を故原田ワイズメソッドにて行いました。

河野メン：「ワイズ北東部にてCS及びYMCAサービスの担当となった。那須ワイズとしても力を入れていきたい。例えば「ゴミ拾い」もCSの一環なので、植樹例会の時に会場周辺のゴミ拾いなどを行うのも良いのではないか。」「個人の抱負としては、健康を維持していきたい。」

張メン：「元気に一年を過ごしたい。色々なことにチャレンジしたい。」「ワイズ例会へ留学生を誘いたい。それによって日本での生活の不安を少しでも取り除いてあげたい。」「色々な手続きを行うため一度帰国(アメリカ)するが、無事に戻ってきます。」

田村メネット：「健康を維持していきたい。階段の昇り降り・かかと落とし運動・3分体操・意識して歩くなど、継続して行っていきたい。」「字を丁寧に書きたい。以前と比べるとパツパツと書くことが多くなり、また真っすぐに書けなくなった。」

田村メン：「今月の聖句は『～泉のわく所～』(詩編84編7節)と続く。どんなに苦労があっても進んでいけば「泉のわく所、神様が乗り越える力をお与えになる、ということである。YMCAやワイズを立ち上げ支え続けていくことは大変だったが、続けていくことで多くの経験を得て、多くの人と関りが出来た。これからも続けていきたい。」「長い年月ワイズやYMCA活動して来たが、ワイズやYMCAを知らない人がまだまだいる。もっと知ってもらえるように活動をしていきたい。」

藤生メン：「仕事をリタイアした後の「第2の人生」を生き生きとしたものにするため、趣味や勉強など「やりがい」となるものを探していきたい。」

藤生メネット：「心理学(認定心理士)の勉強をしている。勤務先であるYMCA保育園などで親への相談に生かすことが出来ればと考えている。」

原田メネット：「原田メンが亡くなって1年が経った。自分自身が前へ進んでいける年にしたい。」「原田メンはYMCA・アジア学院・ギデオン協会など創成期から携わりそれらの発展に尽力してきた。そのことにより多くの経験と人との関わりを得ることが出来、人として成長していたように思える。YMCAは色々な人と関わるチャンスがたくさんある。若いYMCAスタッフは積極的にそのチャンスを生

かしてほしい。もちろん私自身も自分事としてとらえ、将来に向かって成長したい。」「健康維持に気を付けていきたい。」

村田メネット：「健康に、そして体力を作っていきたい。膝が痛いなどあるが、「立て直して、いきたい。」「村田メンは(メネットの)親の介護等のために(知り合いもいない)那須へ移住をしてくれた。その中でワイズや地域での仲間が出来、そして仲間がいて色々なことが出来るようになった。私もワイズ(メネット)に参加して、楽しんでいきたい。」

村田メン：「YMCA60年・ワイズ50年、これらに出会って人生の半分を過ごしてきた。」

那須に移り住み、ワイズや地域での仲間と楽しく過ごしている。そして仲間がいるから色々なことが出来るようになった。」

「友人への人生相談、的な話へ脱線しながら、予定の時間もかなりオーバーするほど、楽しい新年例会となりました。」

コロナ禍も「4年目」になりました。感染対策も緩和しつつありますが、新たな変異株の発生など、まだまだ終息は見えてきません。2023年は『～泉のわく所～』となるよう祈ります。

2月(第2例会(役員会)報告)

日時：1月27日(金)午後4時30分から

場所：ZOOMにて(大雪の影響によって急遽変更)

出席者：河野会長、田村副会長、村田副会長、平山担当主事、張ウィリ。

1. 2月リーダー報告会について

日時2月18日(土)午後4時30分～6時、日本基督教団西那須野教会1階ホールにて開催する。コロナ感染拡大に伴い、食事の会はやめて、お茶(暖かいペットボトル)のみで開催する。内容はリーダーによる報告会、卒業リーダーへの記念品贈呈、リーダー育成資金(20,000円)の贈呈を行う、なお、記念品は、名刺入れ、男子2名女子7名。購入は、田村メンに依頼。会費は、500円。お茶の準備は、村田がする。参加したリーダーの報告を聞いて、次年度に対する抱負を高めてほしいと願う。多くのユースリーダーの参加を期待。卒業リーダーに対する記念品贈呈の可否については、今後話し合うことにする。

2. 3月例会について

内容は、「CS 公開講演会(ACPについて)講話河野順子会長」とする。3月18日(土)午後2時から3時30分とする。場所は、日本基督教団西

那須野教会1階ホール。チラシ、ポスターの作成を行い、多くの方を招く。リーダーの参加も期待。

3. 3月役員会（第2例会）について

2月24日（金）午後4時30分から、田村副会長宅で行う。

4. その他

- ・養徳園よりお礼の手紙と領収書が届く。
- ・シイタケ昆布の購入、500グラム57個と250グラム110個を合わせて注文をする。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（第117回）

田村修也

現在でもそうですが、総理大臣が現地を視察したことによって、この計画は国営事業として採択されることになるはずでしたが、政府はすぐに動ける状態ではありませんでした。それは明治10年2月、西南戦争という新政府の存亡を賭けた戦いで、国家財政の90%という莫大な出費を余儀なくされ、財政が底をついていたからです。

印南さんと矢板さんは、何度も何度も上京して、政府に国営事業での実施を陳情し続けました。明治13年に至って、松方正義大蔵大臣は国の事情を話した上で、「米国では皆陸田で、牛や馬による畜力で大農具を用いて大面積を耕し、相当の収益を上げているので、先ず開拓に着手したらどうだ。躊躇していると、競争相手が貸下げを申請して、折角の機会を失うことになる。」という勧めに従って、印南さんたちは水が無いのを覚悟の上で、日本最初の、農民による開拓事業株式会社である那須開墾社を設立して、政府から3千haの土地の官有地貸下げを受けて、10月23日に開拓事業に着手しました。ほぼ時期を同じくして、那須西原に三島通庸ら旧薩摩藩士を中核に肇耕社という開拓会社を設立して、政府から1千haの貸下げを受けて開拓に着手しました。この肇耕社が三島農場となり、その後旧村を含めて狩野村となっていくます。

事実、松方正義大蔵大臣の話したように、1881年頃から那須東原では、青木周蔵、戸田氏共、佐野常民、毛利元敏等の貴族たちが、次々と政府から土地を貸下げして開拓事業の始める準備をしていました。

しかし、水の無いことの大変さを改めて思い知らされました。開拓の記録の中に、「その頃、那須西原に少数の移住者が開墾を始めていたが、彼らは水に非常に困難していた。炊事、飲料、洗面、洗濯、入浴等に、水は一日も欠くことができない。水汲みは女性の仕事であり、半里（約2km）以上の距離が

あるため、折角汲んできた水も家に帰り着く頃には、桶からはみ出して半分になってしまう。ある女性が、何時ものように水汲みに行つての帰り道、肩の痛みを忍びつつ家に急いでいると、石につまずいた途端、水桶も倒れて、水はことごとく流れてしまった。彼女はあまりの情けなさに、地にひれ伏して泣いた。」という文章があります。水場は「頭無し」という伏流水が地上に流れ出てそこから小川になっているところで、大田原市と西那須野町の境界付近で、今でも2か所は住宅団地を養護学校の間に挟まれた水田の土手に残っています。

この困難を乗り越え、耐えさせたものは「これ」でした（種もみの入った竹筒を振って音を聞いてもらう）。水が来れば米が作れるという希望でした。

第2の計画は、明治13年（1880）10月に、水に不自由することは覚悟の上で開拓に着手したのですが、始めてみると水が無いということが、人間の生活上如何に苦しいことであることかを痛切に知らされ、水が無くては開拓事業そのものの成功も危ぶまれるため、当初の計画を変更して、小規模の飲料水路開墾の請願書を県を通して政府に提出したものです。その内容は「那珂川から赤田山の麓まで国が飲料水路を開いてくれれば、その先は三島開墾と那須開墾がそれぞれ自費をもって水路を開墾する。」というものでした。これは政府に受け入れられ、国費により県の直轄事業で実施されることになり、明治15年（1882）11月14日に完成しました。県知事が取り入れ口の仮水留めを取り払うと、那珂川の清流は滔々と水路に流れ込み、知事の一行は用意してあった小舟に乗って、飲料水路を下ったそうです。こうして飲むべき水が無かった那須野が原は水を得て新しい時代に入っていったのです。

昭和40年（1965）頃、西那須野町の演劇サークル「水の会」で、松本 優という高等学校の先生の脚本による、印南文作を主人公とした「水に憑かれた男」という開拓劇に取り組みました。私は印南文作の長男譲の役を貰いました。その劇の中で、この飲料水路が開通した時の状況が書かれています。それは、開拓民の一人が印南文作に「先生、これでもう遠くまで水汲みにゆかなくても済むようになりました。ありがとうございます。これでやっとなが植えられます。でも先生、俺たちは米が作りたいんだ。もっと水が欲しい」という台詞でした。

（以下次号へ続く）

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園
西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光男

クリスマスに、発達相談でお世話になっている長谷川先生のご友人であり、神奈川県で保健師をされているKさんから「きみのことがたいすき(いぬいさえこ)」という絵本をいただきました。

この絵本を読み2人の青年を思い出しました。1人は、酪農学園大学を卒業してアジア学院に1年間ボランティアに来ていたA君です。彼は38年前、アジア学院の良き働きの為に、書き損じのはがき回収による資金集めを始め、それ以来、本園もずっと皆様からの協力をいただいています。

その彼がある時、彼の中学校時代を話してくれました。当時は、「荒れる中学生という」タイトル記事がでた時代でした。彼は入学当初の学校のグラウンドでの朝会に、暴走族の先輩がクラクションを鳴らしながら運転するバイクの後ろに乗って乱入しました。また、家出をして日光のお寺の床下に泊まっていた補導もされたこともあるということです。彼は最後に、「僕が立ち直れたのは、そんな僕をいつも親が信じ続けてくれたからです」と感謝していました。現在は、北海道の知床の自然を守るNPO法人から「シンラ」という会社を立ち上げました。

もう1人は、黒羽刑務所で基督教の宗教教諭師(きょうかいし)をしていた頃の元受刑者のB君です。釈放後、ガールフレンド、そして、彼のご両親が尋ねてくれました。家族関係がともうまくいっている様で安心しました。彼は、今はカトリック信徒になり、高齢者介護福祉施設のある部門の責任者として立派に働いています。彼の母親からは、仮釈放後が決まった時に手紙をいただきました。彼の更生を心から願い、信じている内容でした。親子の関係を回復し、彼は社会復帰を果たし、今は、私に高齢者福祉の現状について教えてくれています。

冒頭に紹介した「きみのことがたいすき」には、内容の全てを子ども達が理解するかはともかく、親が子どもに伝えたいこと全てと言ってもよいことが、わかりやすく綴られています。それは、同時に親として子どもによって育てられている自身への応援メッセージでもあると感じました。パーフェクトな育児を目指さなくてOK。今のままでOKというメッセージです。その絵本の最後のページに、親からの子どもへのメッセージを書くところがあります。自分だったら何を伝えたいかなと思案します。

A君もB君も、家族の関係回復や社会復帰がうまくいったケースでしょう。元刑務所教諭師、保護司としての私のつたない経験からは、絵本の読み聞かせでいうならば、子どもが内容についてわからないところがあっても、親と子どものことばの共有や一緒という共通の経験が、その子の将来にとって重要と考えます。その経験が親子のきずなを強め、信頼につながるからです。今の幼児期の子育てが大切です。(しらゆり 2023年1月13日修正版)

聖園那須老人ホームだより

社会福祉法人 イースタービレッジ
那須聖園老人ホーム

施設長 薄井 高宏

厳しい寒さに身も凍える今日この頃、皆様におかれましては、如何お過ごしでしょうか。

この厳しい寒さの中、建替え施設の工事は進み、現在は、内装と外構工事に入ってまいりました。先日、職員限定で工事中の建物内の見学ができ、新しい施設での生活により、リアリティが増してきました。そうすると今度は、新施設での入所者の生活がどう変わるのか、どう生活して頂くのか、今から、部屋割りや日課を再構築して引っ越しに備えているところです。現在の予定では、3月中には引渡しと設備・備品の搬入、設置、4月には、皆様にお披露目できればと考えております。

新しい施設共々、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

新しい施設に建替わるにあたり

聖園那須老人ホームでは、新しく個人契約入所を開始したいと思えます。この制度は、地域にお困りの方々に住宅を供給する観点からのサービスで、措置入所で必要な条件や入所判定委員会の意見、市町の決定がなくても施設と入所を希望する方との契約で入所できるサービスです。契約にもいくつか条件や料金の違い、サービスにも違いがありますので、ご興味のある方は、下記連絡先までお問い合わせください。

また、新築にあたり、ご寄付も募っております。

タオル寄付のお願い

聖園那須老人ホームでは、入所者の方々が生活する中で、様々な場面で使い切りの布(タオル)を使用しています。つきましては、皆様には、タオルの寄付をこれまで同様お願いできれば幸いです。

・新品、未使用、使用後は問いません。

・ハンドタオル、フェイスタオル、バスタオル、

タオルケット等大きさも問いません。

- ・御年賀やご挨拶で頂いた物、未開封、開封後等問いません。
- ・切断や洗濯、消毒はこちらで行います。
- ・まとまった数が集まる場合は（距離によってですが）、お引き取りに伺います。

YMCAだより

【ウィンタープログラムが終了しました！！】

12月下旬からスタートしましたとちぎYMCAウィンタープログラムがコロナの影響による中止なども無く、予定通り実施されました。大きなけがや事故もなく無事に終了いたしました。総勢130名がキャンプやデイプログラムに参加し、冬の時期ならではのスキーや雪遊び、餅つきなどを体と心で体験し様々な成長が子どもたちに見られました。どのプログラムにおいても有意義な時間を過ごし、貴重な体験を重ねることができました。

YMCAのプログラムにはCaring（やさしくする）、Honesty（しょうじきになる）、Respect（人を大切におもう）、Responsibility（できることは自分からする）というYMCAで大切にしている4つの想いが込められています。プログラムの様々な場面で、子どもたちがそれを感じ考えてくれたらとても嬉しく思います。また、その経験が子どもたちを成長させ、日々の生活で活かされることを願い、今後もプログラムを展開していきます。



【YMCAピンクシャツデー2月22日（水）】

ピンク色の服を着ていじめ反対をアピールする「ピンクシャツデー」を今年も全国のYMCAで行います。この運動は2007年カナダで、ピンク色のシャツを着た少年がゲイだといじめられたことに抗議し、皆でピンクシャツを着たことから始まりました。社会全体がいじめに対して「自分事として」向き合うこと、そして被害者と加害者以外の立場にいる人が「傍観者にならないこと」が、いじめられている人を救うことになると私たちは考えます。公平で平和な世界の実現を目指していきます。また、今年は2月3日にリーダーたちにジェンダーなど身近なもやもやについて考えるリーダートレーニング



を予定しております。2月22日はみなさんでピンクシャツを着ましょう！

【とちぎYMCA・那須YMCAの2月の予定】

- ・2/3（金） ピンクシャツデーリーダートレーニング @宇都宮YMCA・オンライン
- ・2/4（土） サタデークラブ@大沼公園・雪遊び
- ・2/12（日） Yキッズ@雪遊び
- ・2/18（土） サタデークラブ@西那須野幼稚園
- ・2/18（土） YVLF・全国リーダー研修会の報告@西那須野教会
- ・2/18・19（土・日） 野外クラブ雪遊びキャンプ@なす高原自然の家
- ・2/22（水） ピンクシャツデー

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前（リーダー名） 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは？ 5. 思い出に残った活動とその理由は？ 6. 今後の進路は？ 7. YMCAに一言

今月は休みます

編集後記

・各地のワイズの方々より、那須ワイズのブリテンについてお褒めや励ましのお言葉をいただいております。頑張っってより一層、よいブリテンづくりに励みましょう！

- ・後期の会費納入をお願いします。
- ・年賀はがきの3等の当選番号は下記のとおりです。皆さん頑張っってたくさん集めましょう。

下2ケタ

73・42・11